

「蓮華実生」

真宗門徒の皆様、日頃は御自坊の護持にご尽力下さいまして感謝申し上げます。また、聞法にも励まれておられることお慶び申し上げます。今年も残すところ僅かとなりました。急に寒気が入り込み、寒さが身にこたえます。

さて、人生の華開くと感ずる時は人それぞれだとは思いますが、一年の終わりを迎える時というものは、今年一年、私は何を成し得たかと振り返ることでしょう。一年という区切りは、一つの花が実を結んだ時と申しても過言ではないでしょう。人は種を蒔き、肥料を与え、風雪に耐えながら、やがて芽を出し花を咲かせ、実を結ぶ姿に感動を覚えます。その成長の刻々の姿に様々な思いを込めた瞬間が頭をよぎる時、生きている喜びに浸れることでしょう。

因果という言葉があります。因とは原因、果とは結果。この世のすべては原因があって結果がある。こういう結果になったのは、すべてそういう原因をつくっていたから起こったのであると教えます。因とはまた、種をあらわします。「瓜の蔓（つる）には茄子はならぬ」と言いますが、瓜の種を蒔けば、必ず瓜がなるのです。種を蒔き、やがて芽が出て花が咲き、花が散った後に実がなる。しかし、梅雨時に雨が降らず、夏の日が十分でないと作物は実りません。そのように、種が成長するには種に必要な条件が整わないと実を付けません。人もそうです。人は生まれながら人ではないのです。人が人になるのは環境が必要です。家族と社会という環境によって、人が人として生きていく道を学ぶのです。これが因縁というものです。種にあった、条件=縁。その人その人に合った条件=縁が揃った時にすくすくと成長するのです。

蓮の花は仏の花と言われます。なぜかと申しますと、蓮は「因果俱時」という意味があります。分かり易く申しますと、因果が同時に存在するということです。普通、花は種を蒔き、やがて芽が出て、花が咲き、花が散った後に実ができるものです。そして、その実が次の子孫となるのですが、蓮の花は花が咲いていると同時に実を結んでいるのです。

つまり、因と果が同時に存在しているのです。私達は無明の世界に生きています。因果が見えないのです。これだけ努力すれば必ず結果が出るはずだと信じています。結果が出ないと「どうしてだ、どうしてだ」と悩みます。良い縁に触れてこそ結果は出るものです。縁は数限りなくあります。病気もそうでしょうし、地の利も天の時も人の和もすべて縁です。出来ることなれば、蓮の花のように一年に一度、必ず花も実も結ぶようでありたいものです。